

2004年度社団法人大津青年会議所
議 案 書

議 案 名 2004年度事業報告(案)に関する件

基盤強化室 室 長 大澤 博
総務委員会 委員長 松山 延寿

下記の書類をもって、事業報告といたします。

記

- ・ 理事長報告
- ・ 総会・例会一覧表
- ・ 室・委員会報告

以上

理事長報告

2004 年度理事長 塚田眞右

2004 年度社団法人大津青年会議所の活動は、前年度に創立 50 周年を終え、次の半世紀への扉を開け、力強く歩みを踏み出す年として、また、「プラスアルファの地域づくり構想」推進一年目の年として位置づけ、確かな足取りで鮮やかな足跡をスローガンとし、様々な活動に邁進しました。一年間の成果を報告します。

構想具現化への歩み

「プラスアルファの地域づくり構想」推進一年目として、本年度は構想に対するメンバーの正確な理解を促すとともに、行政や市民団体、地域住民に対し私たちの価値観を広げ、また、構想の象徴たる噴水の情報収集と活用方法を模索することを目指し、ビジョン、噴水、二つの委員会を設置し活動を行いました。

メンバーへの理解については、年初は構想への理解不十分、かつ噴水の意義付けが曖昧なメンバーが見受けられましたが、例会、事業、公開委員会を通じて、また日々の委員会の啓発活動やメンバー同士会話の積み重ねバッジの作成などにより日を追うごとに、その数は減少しビジョンを正しく理解するメンバーを増やし、理解度を深めることが出来ました。

行政や市民団体、地域住民にも、私たちの価値観を広げることができました。5月例会（大津っ子祭り）においては、市民に対して大津市内に設置されている噴水を紹介し、工夫を凝らし噴水に対する興味を高め、噴水音楽祭では出演者や、ポスターを配布した学校関係者、審査員、報道関係者などに構想を丁寧に説明する機会を持ちました。更にテレビ出演や新聞記事により、多くの市民に大津青年会議所が目指しているものを伝えられたと思います。また、噴水音楽祭、絵画・写真コンテストでは、昨年度ミュージカルにおいて実施した私たちの思いを市民の手を借りて表現し発表するという手法から一歩前進し、市民が感じた地域の魅力を市民自身が市民に伝えるという手法を成功させた点において大きな意義がありました。しかしながら、多数の住民が私たちの活動を認識・理解し賛同を得るまでにはまだまだいたっていません。構想実現のためには、今後も継続的に行政や市民団体、地域住民に対して私たちの活動に対する理解を促し続ける必要があります。

噴水への情報収集に関しては、早期にビジョン委員会が噴水マップを完成させ、一年間のそして今後の足がかりとなりました。情報を蓄積する過程において、委員会自身が大津に点在する噴水への理解を深め、また、この情報を事業にてメンバーにそして住民に伝えたことは、噴水のまち大津に至る道のりの第一歩として、象徴としての噴水の正当性と可能性を確認するうえでも大きな効果が得られたと考えます。

これら事業を実施し進捗した成果は報告書として纏め上げるとともに、噴水憲章の策定は次年度への申し送り議題として引継ぎました。2005 年度はビジョン系の委員会は統合され、一委員会にて象徴の浸透と、ビジョンの具現化を担うこととなりますが、本年度の成果を踏まえ、また報告を引き継ぎ、更にロードマップに則り、構想具現化への歩みを確かなものにして下さると確信しています。

地域との関わり

地域の青年の集まりである社団法人大津青年会議所とそれを構成するメンバーが、地域社会の期待に応え、そして地域社会の発展に寄与し続けるために、新たな半世紀に歩み出す 2004 年度、行政の目指す地域づくりを理解した上で、私たちの活動の方向性を鑑み、今後の、地域とのかかわり方を考えました。

2004 年は市長選挙の年に当たり、この期を捉え新たなリーダーの選出に関与することは、私たち自身が今後の地域づくりに関心を高め、興味を持ち、知識を高めるに留まらず、地域社会に大津青年会議所の活動を誇示する上で、また、大津青年会議所の存在意義の一端を確認する上でも大きな機会です。そこで大津市市長選挙公開討論会を実施しました。公開討論会は、山田前市長の突然の辞任により実施時期が早まりましたが、委員会の努力により、全員の立候補予定者を集め、また討論内容、設営においても申し分のない出来であったと考えます。また、この事業は市民やメディア、各団体からも大きな注目を集め、私達が市政に対し高い関心を寄せるきっかけになったとともに、地域のオピニオンリーダーとなりうる可能性を見出し、青年会議所の地域社会での役割を一考させることとなりました。

市政や、青少年問題について例会で取り上げ学ぶ場を持ちました。従来、市政や私たちを取り巻く社会問題をメンバー全員で学ぶ場はあまりありませんでしたが、地域づくりを実践している組織として、ましてや地域のオピニオンリーダーとなりうるには、常に市政に関心をもち地域問題を意識することは必要不可欠です。この点において新たな試みをしたことは、メンバーの意識改革になったのではないかと考えます。

これからの地域との関わり方の方向性の模索として、各種団体への出向調査を行いました。残念ながら、調査資料を基にした、分析作業や出向先の精査にまでは至ることはできませんでしたが、今までは執行部以外のメンバーが知りえなかった情報を整理し、メンバーに紹介できた意義は、今後の青年会議所運動と地域とのかかわり方を考える上で貴重な資料になると思います。

地域との関りについて主体的に取り組む委員会は残念ながら次年度は設置されませんが、青年会議所が地域で必要とされ、期待に応え、更に大きな発言力を持つ団体になるためには、行政や市民団体などとの関係、連携のあり方や考え、市政や地域問題を学び続ける必要があります。本年度の成果を元に今後はメンバーそれぞれの立場で考え、学び、いずれは市政に対し政策提言できるほど力と能力を持った組織に成長することと期待します。

情報について

情報については、共有化、精査と即時性、公益法人としての情報公開、そして思いのこもった資料の継承に取り組みました。情報の精査については、残念ながら委員長の退会があり、これに伴い委員会の体制の変化の影響もあり、あまり積極的な活動が出来たとは言えません。しかし、即時性については、例会にて実施したホームページ作成講習会が功をなし、各委員会やメンバー自らが作成したページの投稿が多数あり、投稿ページを素早くアップロードしたことで、即時性が実現でき、更にメンバー間の知識の共有ができました。また公益法人としての情報公開については、専務理事主導により、公開すべき全ての情報をインターネットホームページに掲載しました。思いのこもった資料の継承は、あゆみに

において実現しています。一年間の事業報告よりも、それぞれの思いを残すことに力点を置き、委員会のページを新たに作るなど、一年の記憶を資料として残せました。

LOM を支える基盤

営利団体ではない私たちの活動は、人の繋がりを基盤として成り立っています。またこの人のつながりで成り立つ組織の運営も様々な活動を支える上で基盤といえます。本年度は総務委員会、交流委員会を基盤強化室というくくりとし、それぞれ LOM の強固な基盤を築くことを目標に活動しました。

交流委員会では、メンバー同士のネットワーク強化に主眼を置き、従来の懇親会の形態にとらわれず柔軟かつ大胆な手法を用いて一年間活動しました。新年家族会では大津の地を離れ、特に活動を支えてくれている家族に感謝する場として設営したことにより、特別会員がご家族を連れてきて下り、またメンバーが親を連れてくるなど、事業における懇親範囲の広がりを見出しました。さよなら例会は、従来のように式典・懇親の部を分けずに、一元化して実施することで、開会から多くの出席者が一同に介し、心に残るそして心の繋がりを感ぜられる事業となりました。また、夏季懇親例会、さよなら例会とも従来に比較して特別会員の出席人数が多く、LOM を支えるネットワークを広げられました。

総務委員会では特に手続きにこだわった運営に取り組みました。総会の委任状収集方法の変更など、具体的な改善を行い、また、日々の中で定款、規約に厳格にも基づき総務運営にあたった結果、今後組織を維持し発展させる上で、見直すべき事項の検証になったとともに、我が組織の会議所たる意義についても確認できたことと思います。

これらの活動によって、本年度の LOM を支える確固たる基盤を支えるに留まらず、将来への基盤、礎を築けたと考えます。

会員拡大と会員研修

近年数多くのメンバーの卒業が続き、LOM メンバーが減少の一途をたどっています。この状況に歯止めをかけるとともに、入会メンバーの育成そして在籍メンバーの熟成は大きな課題でした。

本年度新入会員 8 名を迎えることができ、在籍メンバー数は 3 桁を維持し 100 名で活動することができました。卒業生の数を上回ることはできず、メンバー数の減少を食い止めることは出来なかったながら、入会メンバーは委員会により実践的な研修の場を与えられ、新入会員自らが活動に自立的に取り組み、メンバーとしての知識の吸収と経験の蓄積がなされたと思います。また、5 回に及ぶ外部講師を招いた計画的な研修事業により、改めて JC メンバーとして必要な知識を在籍メンバーが体得出来たとともに、10 月例会、予定者セミナーでは、長年活躍してきたメンバーから、若年層や中堅メンバーへの思いの引継ぎを行い、在籍メンバーの成長に貢献できたと思います。

出向と各種大会への参加

初の JCI への出向者輩出や、近畿地区担当常任理事輩出、また近畿地区の事務局を受け持ったことにより、2004 年度も例年にも増して多数メンバーを出向者として輩出することができました。滋賀ブロックで、近畿地区で、日本で、そして世界で大津のメンバーが貢

献するとともに、多くの経験を積み学習を重ねたメンバーが大津において活躍することは、キャピタル JC である大津の誇りであるとともに、強みでもあります。次年度は大役を担った出向は途切れてしまいますが、今後とも大所高所でも物事を捉え、地域に密着した活動ができるような LOM であり続けるように出向者輩出を積極的に取り組んで頂きたいと思えます。

多くの出向者を輩出したことにより、そして褒賞申請した 2 つの事業が各種大会で褒賞の受賞対象として期待が持てたこともあり、従来にも増して多くのメンバーが各種大会に積極的に参加し、また、日本で開催された世界会議を筆頭に参加すべき会議の全てに大津 JC のメンバーが参加しました。各種大会の参加は見聞を広げ見識を積む絶好の機会です。大会への参加は登録料や交通費などの費用と時間を必要としますが、多くの機会を提供し、必ず費やした以上の経験がもたらされます。今後も一人でも多くのメンバーが各種大会に積極的に参加する LOM であり続けることを望みます。

日韓交流

本年も訪韓、訪日事業を実施し瑞草青年会議所メンバーとの友好を積み重ねるとともに、訪日の際には実行委員会が主催する第 2 回日韓交流フットサルフェスティバルに参画し、大津市民と韓国国民の市民交流に寄与しました。本フェスティバルは第 2 回を重ねるに至ったこともあり、昨年よりも市民同士の交流に深まりを感じました。更に、瑞草青年会議所メンバーとは、訪韓、訪日事業以外に世界会議でも出会い、また、さよなら例会にも瑞草メンバーが多数出席して下さるなど、儀礼での友好関係ではなく、更に深い友情関係への発展を感じました。また、審議議案とはなりませんでしたが、大津青年会議所の有志により、朝鮮初等学校において、韓国から来日したアカペラグループのコンサートをコーディネートしたこと、近江多文化交流フェスティバルへの協力など、姉妹 JC との交流に留まらず、日韓交流、国際交流に寄与することができました。

価値観の伝達と若いリーダーの育成

本年度組織を組む上で若手リーダーの育成を目的とし、卒業生を役職からなるべく排除し、一方で若手を積極的に役職に登用しました。その結果特に理事の顔ぶれが大きく変わり、当初は運営面での不安がありましたが、老練なメンバーが委員会で委員長を援助し育て、それぞれが与えられた役職の意味を理解し経験を積むに連れ、従来にも増して生氣あふれる活発な組織となる変化の兆しを感じる事ができました。また事業や理事会そして懇親会の場において卒業を控えた老練なメンバーから若手のメンバーに対し、長年の JC 活動で得た経験談を語り、思いや価値観を伝える場面が多数ありました。また、委員長や副委員長など中堅のメンバーが若手のメンバーと JC 論を語っている場面も見受けられました。これらを通して価値観の伝承と、今後の LOM を担うリーダー層の育成を果たせたと思えます。39 年組み卒業により、LOM で数々の役職を担ってきたメンバーが一挙に多数去りますが、これからも、若いメンバーが中心となって LOM のアイデンティティを大切にしながら新たな価値観を見出し、力強く大津青年会議所活動に取り組むことと確信しています。

2004年度、多くの委員会がそしてメンバーが目標を達成しました。また、目標達成に及ばなくとも確かな足取りで歩みを踏み出しました。そして一年間の活動においてメンバーが大きく成長しました。これらの鮮やかな足跡そくせきは、大津青年会議所の次の半世紀に向かう活動の歴史として、大きな成果を挙げたと思います。次年度はこの成果を基に「魅力再発見」を目指し、メンバーが一丸となり邁進できることと確信します。

2004年度事業報告書

総務委員会

室長 大澤 博
委員長 松山 延寿

- 1) 事業計画と予算案を検討。
- 2) 事業計画書・予算書・事業報告書及び決算報告書。
- 3) 総会を企画・運営。
- 4) 基本資料の作成と会員への周知。
- 5) 変更登記申請の手続き。
- 6) 公式訪問を担当。
- 7) 新入会員面接及び入会手続き。
- 8) 役員選任に関する規定に基づく作業。
- 9) 褒賞規定に基づく作業。
- 10) 会員資格規定に基づく作業。
- 11) 近畿地区大会の担当窓口。
- 12) 日韓交流事業に協力。
- 13) 8月全体事業に参画。
- 14) 会員の拡大に協力。

交流委員会

室長 大澤 博
委員長 馬場 正治

- 1) 新年家族会。
- 2) 7月例会を担当。
- 3) 12月例会を担当。
- 4) ブロック会員大会の担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 8月全体事業に参画。
- 7) 会員の拡大に協力。

ビジョン委員会

室長 住若 彰
委員長 谷 祐治

- 1) 5月例会（大津っ子まつり）を担当。
- 2) 8月例会（全体事業）を担当。
- 3) 噴水データベースを作成。
- 4) 大津夏祭り・江州音頭総踊りの担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 会員の拡大に協力。

噴水委員会

室長 住若 彰
委員長 谷 崇史

- 1) 3月例会を担当。
- 2) 6月例会を担当。
- 3) 噴水に関する事業。
- 4) 京都会議の担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 8月全体事業に参画。
- 7) 会員の拡大に協力。

政策委員会

室長 饗場 貴子
委員長 村田 浩一

- 1) 2月例会を担当。
- 2) 9月例会を担当。
- 3) 市長選挙にて政策討論会事業。
- 4) 行政・各種団体との関わりを検証。
- 5) ヨシ刈りの担当窓口。
- 6) 日韓交流事業に協力。
- 7) 8月全体事業に参画。
- 8) 会員の拡大に協力。

情報委員会

室長 饗場 貴子
委員長 八木 健次

- 1) 4月例会を担当。
- 2) ハンドブックの作成・発行。
- 3) ホームページの運営・適宜更新。
- 4) 「青の輝き」事業。
- 5) 「あゆみ」の編集・発行。
- 6) 大津JＣの活動を記録。
- 7) 褒賞申請。
- 8) サマーコンファレンスの担当窓口。
- 9) 日韓交流事業に協力。
- 10) 8月全体事業に参画。
- 11) 会員の拡大に協力。

拡大研修特別委員会

委員長 宇田 毅

- 1) 10月例会を担当。
- 2) 新入会員の拡大。
- 3) 新入会員獲得のための説明会。
- 4) 拡大パンフレットを作成。
- 5) 日韓交流事業。
- 6) メンバーの資質向上研修。
- 7) 予定者セミナー。
- 8) びわこを美しくする運動実践本部に協力。
- 9) 8月全体事業に参画。

2004 年度 総会・例会 一覧表

月	開催日	内容	講師等	担当委員会	会場	出席数 出席率
1月	1/27(木)	第1回通常総会		総務	アヤハレーク サイドホテル 比叡の間	41名 44%
2月	2/18(水)	2月例会		政策	びわこ大津館 桃山	39名 41%
3月	3/18(木)	3月例会		噴水	びわこ大津館 桃山	35名 37%
4月	4/15(木)	4月例会	木村利和氏	情報	びわこ大津館 桃山	38名 39%
5月	5/23(日)	5月例会 大津っ子まつり		ビジョン	皇子が丘公園	39名 40%
6月	6/13(日)	6月例会 「噴水ウォーキング」		噴水	大津市長等・逢坂・中央学区周辺	29名 30%
7月	7/19(土)	7月例会		交流	琵琶湖ホテル ローズ	47名 47%
8月	8/22(日)	8月例会 (全体事業)		ビジョン	びわこホール 小ホール	48名 48%
9月	9/21(火)	9月例会 「まちづくりは ひとづくり」	大津少年センター 所長 安藤洋氏	政策	びわこ大津館 桃山	33名 33%
10月	10/18(月)	10月例会		拡大研修	ロイヤルオークホテル ライラック	36名 36%
11月	11/26(金)	第2回通常総会		総務	琵琶湖ホテル 瑠璃	40名 40%
12月	12/11(土)	12月例会 さよなら例会		交流	大津プリンス ホテル 淡海	61名 61%

事業報告書

基盤強化室
室長 大澤 博

2004 年度基盤強化室につき、下記の通り事業報告します。

【1】全体的報告

〔基本方針に対し、どこまで達成できたか、
また、どの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。〕

今年度、基盤強化室では先輩諸兄から受け継いだ良き基盤を次の半世紀に続く様に室運営を行ってまいりました。総務委員会では馴れ合いによる運営ではなく、決められた手続きや財務の管理を厳粛に行い、またそれを確実に継承する仕組みを見直しました。交流委員会ではメンバー間の活動参加の意識の温度差になくすために、人と人の繋がりをいゆる「ネットワーク」を組織内で強化しメンバー同士の絆が新たに強固なものとなる事を目指しました。この両委員会の活動により、先輩諸兄から受け継いだ良き基盤は揺るぎ無い強固なものにまで居たらぬも確実に強化され次世代につながる基盤になったと考えます。

【2】個別的報告

〔事業計画における事業について、
その成果と問題点、その理由等を書いて下さい。〕

総務委員会では、通常総会においては委任状のみの事前回収を廃止し、総会資料一読の上、委任状を返送していただく方法を実施するなど、すべての事業において厳格な手続きにこだわり実施していただきました。

交流委員会では、一年間活動するに於いて御家族の理解と協力が不可欠と考えて頂き例年に無い形式でのバスで行く新年家族会を行い社団法人大津青年会議所への理解を深めて貰える設営をおこなうなど、一年間を通じその都度バラエティに富んだ設営でいただきました。またさよなら例会においては本年度最高の出席率の参加者で本年度を締めくくると考えます。

【3】その他（【1】【2】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

室長としての実績を残す事は出来ませんでした。委員長に委員会メンバーの思いが強いと今年一年間を通してこんなにも素晴らしい社団法人大津青年会議所活動をして頂けるんだなと改めて感じました。又、社団法人大津青年会議所のメンバーの結束力の素晴らしさが改めて身に沁みる一年間でした。

事業報告書

基盤強化室
室長 大澤 博
総務委員会
委員長 松山 延寿

2004年度総務委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 事業計画と予算案を検討。
- 2) 事業計画書・予算書・事業報告書及び決算報告書。
- 3) 総会を企画・運営。
- 4) 基本資料の作成と会員への周知。
- 5) 変更登記申請の手続き。
- 6) 公式訪問を担当。
- 7) 新入会員面接及び入会手続き。
- 8) 役員選任に関する規定に基づく作業。
- 9) 褒賞規定に基づく作業。
- 10) 会員資格規定に基づく作業。
- 11) 近畿地区大会の担当窓口。
- 12) 日韓交流事業に協力。
- 13) 8月全体事業に参画。
- 14) 会員の拡大に協力。

【2】全体的報告

〔 基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。 〕

本年度、総務委員会では、「強固な基盤づくり」と「次代への歴史の伝達」を二本柱とし活動して参りました。

「強固な基盤づくり」においては、組織運営の要としてあらゆる手続きにこだわり、その原理原則を追求することによって、決して馴れ合いではない組織としての揺るぎない強固な基盤の形成に努めました。決められたことを、決められた期日までに、決められた手続きに則り活動することを常に念頭に置き総務運営を行いました。結果、各室・各委員会どおしの繋がりを強化し、ひいてはLOMとしての強固な基盤を形成できたと考えます。

また、「次代への歴史の伝達」においては、情報化の時代に即した資料の伝達のあり方を協議しました。具体的には、活動記録保存方法並びにペーパーレス会議導入に関する検討を行い、社団法人大津青年会議所文書保存管理規則一部変更を視野に入れ協議を繰り返し、2004年度第18回理事会において報告致しました。結果として、写真による活動記録については、委員会毎にCD-Rに記録し事業年度終了後事務局に保管することとしました。ペーパーレス会議導入については、全面導入を時期尚早と考え、当面の間、可能な限り

理事会及び執行部会議において導入すべきとしました。文書保存管理規則一部変更については、電子計算機等の設備が整いしだい当該規則の一部変更を実施することとしました。「次代への歴史の伝達」の部分においては、その多くが次年度以降への引継ぎ項目となり、今後は一委員会のみならず、L O M全体としてこの問題に取り組むべきだと認識致しました。ただ、初年度に当委員会において協議し、達成は出来なかったものの、当該報告書が今後のL O M運営の一助となることを期待致します。

【3】個別的報告 { 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 }

事業計画と予算案を検討においては、総務ヒアリングを実施し、各室並びに各委員会の事業計画及び予算に反映出来る検討が出来たと思います。

事業計画書・予算書・事業報告書及び決算報告書の作成においては、提出期日を定め、各室長・各委員長のご協力のもとスムーズな作成が出来ました。

総会を企画・運営においては、第1回通常総会より委任状の事前回収を廃止し、総会資料一読の上、委任状を返送していただく方法を実施したところ、第1回総会最終出席者数（委任状提出者含む）74名（出席率79.5%）、第2回総会最終出席者数（委任状提出者含む）70名（出席率70.0%）に達し、両総会共に7割を越す出席者となりました。また、総会はL O Mにおける最高決議機関であり、厳粛且つ厳格に実施することを心がけました。

基本資料の作成と会員への周知においては、滋賀ブロック協議会公式訪問並びに役員懇談会間際に作成したため、会員への周知を十分に出来ませんでした。

変更登記申請の手続きにおいては、理事・監事就任承諾書の早期回収に努め、期限内に申請を行いました。

公式訪問を担当においては、出席要請を細めに行い29名ものメンバーに出席して頂きました。また、遅刻者を一定の時間に入場さすなど工夫を凝らしスムーズな議事進行を心がけました。公式訪問事前に総務委員会主催でリハーサルを行い、各室長・各委員長ご出席のもと想定質問の意見交換等を行いました。これにより質問内容を事前に検討でき、また滋賀ブロック協議会への理解も深まったと思います。

新入会員面接及び入会手続きにおいては、本年度随時入会を実施されたため、新入会員総務面談を4回行いました。入会手続きにおいても、手続きにこだわり厳格に遂行出来ました。

役員選任に関する規定に基づく作業においては、被選挙人名簿の見直しを行い、早い段階から作成に取り掛かりました。理事及び監事選考委員選挙においては、不在者投票（2日間）・本投票を通じ、監事立会いのもと厳格に実施出来ました。しかし、投票率は47名（51.0%）と低く、さらに選挙の重要性を訴えかけると同時にその認識の必要性を深める必要があると感じました。また開票においては、委員会メンバーが手分けしスムーズな開票作業が出来ました。そして、例会での開票結果報告では初めてプロジェクターを使用し報告致しました。

褒賞規定に基づく作業並びに会員資格規定に基づく作業においては、委員会メンバーが正月返上で作業を行い、正確に行うことが出来ました。

近畿地区大会の担当窓口においては、本年度当 L O Mより坂口昌弘近畿地区協議会会長以下多数のメンバーを輩出しているため、例年以上に参加要請を行いました。結果、28名のメンバーと共に泉大津での近畿地区大会に参加出来ました。

日韓交流事業に協力・8月全体事業に参画・会員の拡大に協力においては、委員会メンバーの積極的な協力のもと参加出来たと思います。

【4】その他（【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

例年、多くの事業を行う総務委員会ですが、その多くが既にルーティンワーク化しており、一歩間違えると流れ作業のようになってしまいがちです。しかし、各事業を実施する場合において、何か一つこだわりを持ち実施されると当該年度のカラーが出た総務委員会となると思います。

また、総務委員会は性質上、L O M全般にわたっての事業が主となります。よって執行部・各室・各委員会・各メンバーと積極的にコミュニケーションを図ることを心がけ、常にL O M全体を見据え、正確にそして着実に活動して頂けたらと思います。

最後に、どんな組織にもラインとスタッフが存在し、社団法人大津青年会議所においても例外なくそれが存在します。総務委員会はスタッフの基礎であると同時に、事業系委員会を側面から推進するポジションであります。当該ポジションは実は非常にあいまいであり、引っ込み過ぎると事業運営に支障をきたし、逆に出過ぎると官僚的となり事業に柔軟性が無くなってしまおうと思います。その部分を常に考え活動することによって、それぞれの事業が成功へと導かれると同時に、総務委員会としての信頼が確立出来うると考えます。

【5】室長のコメント（室の基本方針との関連において）

今年度の総務委員会では基盤強化室の基本方針に掲げている先輩諸兄から受け継いだ良き基盤を次の半世紀に続く様に、手続きにこだわった総務運営を最後まで厳格に行って頂き、またそれを確実に継承する仕組みを見直すことで社団法人大津青年会議所の基盤の強化に繋がったと思います。

事業報告書

基盤強化室
室長 大澤 博
交流委員会
委員長 馬場 正治

2004 年度交流委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 新年家族会。
- 2) 7月例会を担当。
- 3) 12月例会を担当。
- 4) ブロック会員大会の担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 8月全体事業に参画。
- 7) 会員の拡大に協力。

【2】全体的報告

〔 基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。 〕

今年度交流委員会では組織の基盤となるメンバー同志が顔見知りから友達そして親友へ絆が深まり、繋がり（ネットワーク）を強化することが不可欠であり、結果メンバー間の温度差も解消されると考え一年間努力してまいりました。そして、事業を行うごとにメンバー同士の繋がり（ネットワーク）の構築できたと考えます。

しかし、温度差を完全に解消するところまでは至っていないように思います。

【3】個別的報告

〔 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 〕

新年家族会では、基盤となるメンバーが一年間活動するに於いて御家族の理解と協力が不可欠と考え例年に無い形式でのバスで行く新年家族会を行いリラックスしたなかで大津 JC への理解が深まりました。また、七月夏季懇親例会に於きましては、瑞草青年会議所メンバー特別会員の方々を招きスタンダードな形式の中にも映像によるアトラクションを行い参加者の心が一つに成れました。

そして、さよなら例会では今までに無い形式での設営であり、いろんな意味でリスクの伴う例会となりましたが、その分多数の参加して頂いた来賓、特別会員、瑞草 JC そして現役メンバーが卒業メンバーの方々と心に残る繋がり（ネットワーク）をもっていただけました。

このように、一年間を通じその都度バラエティに富んだ設営でありメンバー同士のサポートがなければ本当に出来ない事ばかりで人の繋がり（ネットワーク）の重要さを感じずにはいられない一年でありました。

【４】その他（【２】【３】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

来賓、特別会員の参加される事業は関係者との打ち合わせを密に行うことが必要と思われます。特にさよなら例会に於きましては卒業生の方々との打ち合わせは重要と考えます。

【５】室長のコメント（室の基本方針との関連において）

今年度の交流委員会では基盤強化室の基本方針に掲げている先輩諸兄から受け継いだ良き基盤を次の半世紀に続く様に、一年間を通じその都度バラエティ - に富み、また例年とは異なる設営なども行って頂き、メンバー同士の絆が新たに強固なものとなり、それが次世代につながる基盤の強化に繋がったと考えます。

事業報告書

ビジョン推進室
室長 住若 彰

2004 年度ビジョン推進室につき、下記の通り事業報告します。

【1】全体的報告

〔基本方針に対し、どこまで達成できたか、
また、どの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。〕

本年度、ビジョン推進室では、LOM内外に（社）大津青年会議所が目指している地域づくりを広め、理念の浸透を図るべく、「プラスアルファの地域づくり構想」を推進する事業と「噴水」を活用した社会開発事業を2つの柱として両委員会が密接に連携を保ちながら、構想具現化に向けた、活動を1年間展開してきました。

ビジョン委員会では、「プラスアルファの地域づくり構想」を推進するにあたり、活動推進のツール「噴水」の魅力をデータベース化し、多くの市民の方に公開することにより、活動に対する理解を得る事ができると共に構想を各世代別に分り易く発信できたと考えます。

噴水委員会では、「噴水」そのものについて学んでいただき、どのように利用することができるのかをメンバーとともに考え、それとともに構想についても認識していただけたと考えます。また、噴水写生 & フォトコンテストの実施により、両委員会で「噴水のまち大津」を市民に根付かせる第一歩を踏み出せたと確信します。

【2】個別的報告

〔事業計画における事業について、
その成果と問題点、その理由等を書いて下さい。〕

本年度当室では、3月、5月、6月、8月の4例会を担当しました。

ビジョン委員会では、5月例会「大津っ子まつり」において、「噴水」の所在とその魅力を子ども達を中心に紹介し、親しみを感じてもらった事ができたと考えます。また、キャラクター人形を作成し、当日、名前を公募し、“ミズタン”、“ミズリン”という名前を選出し、その後の事業等にも登場し、その場を盛り上げる事ができました。

8月例会においては、全体事業としての『おおつ噴水音楽祭』を行ないました。音楽という手法を用い、多世代の方々に事業に参加していただき、当日は非常によかったと思います。しかし、久しぶりの全体事業であり、全体事業の位置付けがわからないメンバーが多く、委員会としてもメンバーに対してどのような形で、関わってもらったら良いのか、明確に答えが出ないうちに当日を迎えた感があった。また、当日も個人の資質に非常に助けられた感がありました。今後、全体事業を行なうにあたって、1年1年しっかりとした検証をし、また、会員数の減少も考慮しながら、新たな全体事業像を確立していただきたいと思います。また、全体事業を行う例会が8月以前に行なってもいいのではないかと感じました。

噴水委員会では、「噴水」をツールとして、どう利用し、どう活用できるかを考えるのを目的に置き、まず、3月例会では、ワークショップの手法を用いて、グループに別れ、

噴水を使った地域づくりを考えて頂く事で、構想が身近に感じて頂けたと考えます。

6月例会では、噴水ウォークラリーと題し、実際に大津の噴水（浜大津周辺）を歩いて見て頂きました。まちの中にある噴水を見て頂く事で、今後、具体的に活用した事業を考える中で、大変、貴重な体験だったのではないのでしょうか。

また、8月の噴水音楽祭において、『噴水写生&フォトコンテスト』を同時に開催いたしました。この音楽祭に華を添えられ、大津の噴水の魅力をアピールすることができたと思います。今後、これを事業とするならば、もっと早く立ち上げ、応募作品を増やす必要があると思います。

【3】その他（【1】【2】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

今年は、去年の提言書に基づき、室の中でメンバー向けにビジョンを正しく認識し推進していく委員会と、市民向けに對外事業を行なう中で、「噴水」の知識を含め、徐々に地域に対して、象徴としての知名度をあげながら市民に根付かせていく委員会と、二つの委員会を室として、相乗効果をもたせながら行う事ができました。

次年度では、一つの委員会で對外事業だけという組織構成なので、メンバー向けに何度か、公開委員会等を用いてビジョンに対してベクトルを合わせることができる工夫をして頂きたいと思います。

事業報告書

ビジョン推進室
室長 住若 彰
ビジョン委員会
委員長 谷 祐治

2004 年度ビジョン委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 5月例会（大津っ子まつり）を担当。
- 2) 8月例会（全体事業）を担当。
- 3) 噴水データベースを作成。
- 4) 大津夏祭り・江州音頭総踊りの担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 会員の拡大に協力。

【2】全体的報告

基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。

今後、ビジョン推進を目的とした全体事業を行う際には、その組織構成を十分に検討し、大津 JC あげての全体事業として盛り上げていく必要があると考えます。また次年度以降の委員会にビジョンを継承していくには、早い段階での十分な検証が重要であると考えます。全体事業を8月より以前に開催し、その結果を踏まえた上で次年度のスタートをきっていただきたいと考えます。

両事業の広報を通じて、LOM 内はもちろんの事、行政を始めとする様々な団体で、ビジョンの説明をさせて頂く機会をいただきました。その中で感じたことは、「噴水をツールとした地域づくり運動」という言葉がメンバーや市民に対し、ビジョン本来の意味を理解しがたいものになっているのではないのでしょうか。創立50周年を迎え、「噴水」は我々が熟慮の末に選んだ唯一のツール、いい変えれば「伝家の宝刀」であります。焼きなおしに焼きなおしを重ね、我々が手にしたツールであるにも関わらず、それ自身がビジョンであるという考え、また、ただの道具に過ぎないと理解しているメンバーや市民、行政関係者が多いと感じます。昨年度の提言書の中にもあるように、5年間は「噴水」というツールでまちづくり運動を行います。つまり我々には「噴水」を大切にし、その存在を正しく理解する義務があります。「この先、違う相手（ツール）を選ぶかもしれないが、次の相手が見つかるまではこのままで・・・」こんな気持ちになっているメンバーを1人でも少なくしていく必要があると考えます。

【3】個別的報告

事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。

5月の大津っ子まつりにおいては、「噴水」の所在とその魅力を子ども達に紹介をしまし

た。「噴水」に親しみを感じてもらうことを目的としてキャラクター人形を作成し、その名前を公募しました。その結果を踏まえ、ミズタン、ミズリンという名前を選出し、後日 NHK において市民に発表を行いました。保護者並びに行政関係者にも「噴水」に対する認識を深めてもらい、大津 JC が推進している「プラスアルファの地域づくり構想」について知っていただくきっかけとすることが出来ました。

8月例会のおおつ噴水音楽祭においては、大津市にゆかりのある方々にまちに対する想いをオリジナル音楽で演奏していただき、鑑賞頂いた方々のまちへの想いをも深めて頂きました。音楽という手法を用いたことで、多世代の方々に事業に参加していただいただけでなく、様々な団体や企業に運営面でのご協力をいただきました。今回の例会は全体事業という位置づけであった為、準備段階からメンバーに協力いただき、学校まわりなどの広報活動ならびにビジョンバッチ作成等、委員会単位で積極的に参加いただきました。しかしながら、ビジョン推進という大津 JC 全体で取り組むべき課題を扱った全体事業を、1 委員会が主体となって運営していくには、課題もたくさんありました。運営責任者会議及び全体会議を継続して行いましたが、「プラスアルファの地域づくり構想」に対するメンバーの理解が不十分であった事、また全体事業という位置づけが不明確であった事など、当委員会の準備不足も手伝って計画していたような運営会議の設営が出来ませんでした。

【4】その他（【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

「プラスアルファの地域づくり構想」は問題解決型のビジョンではありません。琵琶湖の水質浄化や都市の緑化率などのように、メンバーや市民にその成果が伝わりにくい分、その進捗状況や達成度の判断を行うことは容易なことではありません。目に見えない、数値で表れない成果を求め、この構想に10年間に渡り取り組もうとしています。しかしながら、大津 JC が主体となって行う運動がきっかけとなって、たくさんの市民がまちに対して希望や期待を持ち、それを実現する運動を市民が主体となって継続的に行ってくれば、この構想は我々の想像を遥かに超えた成果を生み出してくれることでしょう。

【5】室長のコメント（室の基本方針との関連において）

1年間を通しビジョンの推進に成果をあげて頂きました。今後、谷委員長にはビジョン推進のリーダーとして、担当委員会の一歩、二歩先を見ながら、10年先の青年会議所の進むべき道をイメージし、地域づくりに邁進して頂きたいと思います。

事業報告書

ビジョン推進室
室長 住若 彰
噴水委員会
委員長 谷 崇史

2004 年度噴水委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 3月例会を担当。
- 2) 6月例会を担当。
- 3) 噴水に関する事業。
- 4) 京都会議の担当窓口。
- 5) 日韓交流事業に協力。
- 6) 8月全体事業に参画。
- 7) 会員の拡大に協力。

【2】全体的報告

基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。

噴水委員会といたしまして、この1年、基本方針に則り以下のように活動を行いました。

まず第1に、この1年で10年ビジョン「プラスアルファの地域づくり構想」を復習し、噴水をツールとして活用する地域づくりをメンバーと共に考える事で、この構想を再度認識して頂き、10年かけて行なうこのビジョンを自分たちの問題として感じていただけるよう活動を行ないました。

実際に例会を行ない感じたことは、回を重ねるごとに、メンバーが噴水の活用の仕方次第では十分に地域づくりに生かせるということを理解して頂く事が出来、噴水を活用した事業を考えて頂く事で「噴水をツールとした地域づくり構想」について身近なものとして感じて頂く事が出来、正しく再認識して頂けたと思います。

第2に、メンバー全体が足並みをそろえ同じ志をもって噴水を活用した地域づくりを行なえるような土壌を作ることです。

噴水を活用した事業を具体的に考えて頂く事と、噴水を使って市民に向けて事業を行う上で重要になってくる天津中心部の噴水とその周りの環境を実際に見る事で認識して頂く事で、今後の市民に向けた地域づくり運動を行うのに必要な基礎を学んで頂きました。残念ながら事業への出席者の数が少なくメンバー全体が足並みをそろえ同じ志をもって噴水を活用した地域づくりを行なえるような土壌は一部しか作る事が出来ず、すべてのメンバーが同じ志を持って頂くまでには至りませんでした。

第3に、噴水を使った市民向けの事業を行うことです。

これにつきましては噴水委員会、ビジョン委員会2つの委員会が市民に向けた事業も行った様な形にはなりましたが、噴水委員会独自で行うより、より良い効果があると考え全体事業の中で行ないました。結果、多数の方に参加して頂く事も出来、たくさんの方に大

津の噴水をアピールする事が出来、噴水委員会としての最終目標の象徴^{シンボル}「噴水」を市民に根付かせる為の第一歩を踏み出すことが出来ました。

【3】個別的報告 { 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 }

・3月例会

10年ビジョンである噴水を使った地域づくり構想を正しく再認識して頂きこの構想が身近なものとなるよう例会を行ないました。

成果といたしまして、10年ビジョンについてビジョン委員会、谷委員長より解り易く説明して頂く事で、10年ビジョンを正しく再認識して頂く事が出来ました。

ビジョンについて復習を行なった後、ワークショップの手法を用いグループで噴水を使った地域づくりを考えて頂く事により、この構想が身近に感じて頂く事が出来ました。

・6月例会

この例会では実際の天津の噴水、噴水のあるまちを歩いて見て頂き噴水の現状、その取り巻く環境を認識して頂く事と、実際に噴水を見て廻りながら3月例会において考えていただいた意見がはたして事業として成立するものであるかを考えて頂き、改めて噴水を活用した事業を考えて頂く事で、この構想がより身近に感じて頂く事が出来、今後の市民に向けた事業を行っていく上で大切な基礎となると考え行ないました。

実際に噴水とその周辺のまちを見て頂く事で噴水そのものの現状や、その周囲の状況を認識して頂く事が出来、今後の市民に向けた事業を考え行っていく上で大切な基礎となったはずです。また噴水を使った事業を考えて頂く時には3月例会で考えて頂いた時以上に具体的に事業を考えて頂く事が出来、この構想がより身近なものに感じて頂けたと思います。

・噴水に関する事業（噴水写生&フォトコンテスト）

噴水の写真や写生を公募する事で市民の方々に噴水に関心を持って頂き、噴水を被写体とする事で噴水の魅力を感じて頂き、作品を展示する事で参加者以外の方にも天津の噴水の存在と、魅力を感じて頂く為に行ないました。

応募作品を見てどれもすばらしい作品ばかりで、噴水を見事に表現されていました。参加者の方は噴水の魅力を十分に理解して頂いたと作品から感じ取れました。

また作品を見て頂いた方は興味深くご覧になっていました。この事から天津の噴水をアピールする事が出来たと感じました。ただ残念な事は応募作品が予想より少なかったことです。

【4】その他（【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

6月例会で行ないました噴水ウォーキングのコースは市民向けの事業にも活かす事が出来るコースであると思います。ぜひ参考にして頂きたく思います。

また噴水を使った事業で行ないました「写生&フォトコンテスト」を行なうのであれば参加賞を用意する、副賞のグレードを上げる等の工夫次第で参加者は増えると考えられます。

参考にしてください。

【5】室長のコメント（室の基本方針との関連において）

昨年の成長室のメンバーが多く、やりづらい部分もあった中、うまくまとめて頂けたか
と思います。また、二例会を通し、「噴水」の具体的な事業を考えて頂き、今後のアクション
プランの参考に、又、活動の糧になったと思います。

事業報告書

情報活用室
室長 饗場貴子

2004 年度情報活用室につき、下記の通り事業報告します。

【1】全体的報告

〔基本方針に対し、どこまで達成できたか、
また、どの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。〕

本年度、情報活用室では、地域の生の声に耳を傾けながら、地域と社団法人大津青年会議所の大きな掛け橋となれるよう、活動してまいりました。市長選の公開討論会を始めとして、地域の声に耳を傾け、街の新しい誕生にも関わることができました。そして、この事業は地域が必要とする事業として、成果をおさめました。

情報の上での、地域と社団法人大津市年会議所の大きな掛け橋という点では、掛け橋になるべく情報の発信ができなかった事が反省点です。

【2】個別的報告

〔事業計画における事業について、
その成果と問題点、その理由等を書いて下さい。〕

政策委員会においての、市長選挙の公開討論会事業は地域が求めている事業として、街の新しい誕生に大きく関わる事ができました。

又、行政・各種団体との関わりを検証することで、社団法人大津青年会議所がこれからの行政・各種団体と関わり、どのように地域と関わっていくかの展望を示せたと思います。情報委員会では、「青の輝き」の事業では、地域の子供達に大津青年会議所の活動を発信する事ができ、将来において未永い広報として、新しい発信を致しました。

又、褒賞申請では、世界大会・アジアBエリアアスパック大会・全国大会・ブロック大会と、申請し、大津青年会議所の名前を残す褒賞として、成果を上げました。

情報の発信においては、大津青年会議所の窓口となり得るホームページにおいて、大変ご迷惑をおかけした期間があった事、混乱があった事、又情報の即時性に欠けた事が反省点です。

【3】その他（【1】【2】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

情報の発信においての即時性に心がける。

ホームページを充実する事で、LOMの活性化に繋がる。

事業報告書

情報活用室
室長 饗場 貴子
政策委員会
委員長 村田 浩一

2004 年度政策委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 2月例会を担当。
「知ろう！大津市」と題して、大津市の現状問題点を学ぶ例会を行う。
- 2) 9月例会を担当。
「まちづくりはひとづくり」をテーマに講師例会を行う。
- 3) 市長選挙にて政策討論会事業。
1月11日(日)に大津市長選挙公開討論会を行う。
- 4) 行政・各種団体との関わりを検証。
各出向者にアンケート調査し集計。
- 5) ヨシ刈りの担当窓口。
1月25日(日)雄琴アクティバ前のヨシ帯にて市民ヨシ刈りに参加。
- 6) 日韓交流事業に協力。
委員会メンバーより訪韓訪日プロジェクトチームに出向。
- 7) 8月全体事業に参画。
噴水音楽祭のポスター作成。
噴水キャラクター「ビジョンちゃん」作成。
8月全体事業会議に参加。
8月22日の全体事業で受付担当。
- 8) 会員の拡大に協力。
拡大研修委員会に委員長出向。

【2】全体的報告

基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。

本年度、当委員会では、「プラスアルファの地域づくり構想」の推進を目的として、対外活動の検証や政策討論会等を通して青年会議所メンバーが学び、市政や各種団体、そして地域住民と共に地域づくりに邁進できるような活動して来ました。

大津市長選挙公開討論会では、立候補予定者6人にパネリストとして参加いただき、多数の市民の方々に市政や地域づくりに関心を持っていただくとともに、各立候補予定者の政策と顔を知る機会を作れたと思います。また、この事業により社団法人大津青年会議所をアピール出来たと思います。

2月例会では、当委員会で調べた大津市の現状や問題点を青年会議所メンバーに学んで

いただき、よりいっそう市政に対し認識と関心を深めていただいたと思います。

9月例会では、講師の先生を招き「まちづくりはひとづくり」をテーマに講演をしていただきました。これにより「プラスアルファの地域づくり構想」の推進を目的とした活動の参考になったと思います。

行政と各種団体の検証では、実際に社団法人大津青年会議所から出向されているメンバーにアンケート調査し集計しました。この集計を出向台帳とし次年度以降の出向に対する参考資料を残しました。

これらの活動を通し青年会議所メンバーが、大津市政や大津市について学び関心を持つと共に「プラスアルファの地域づくり構想」の実現に向けての参考になったと思います。

【3】個別的報告 { 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 }

(大津市長選挙公開討論会)

大津市長選挙公開討論会は、当初4月の予定だったのですが、2003年12月4日に大津市長を6期務められた山田豊三郎前市長が同26日付で健康上の理由により突然の引退を表明された為、1月18日告示、同25日投票日という運びになり告示前の1月11日(日)に大津市長選挙公開討論会の開催となりました。当日会場には、340名の一般市民の方々にご来場いただき、大津市長選挙の立候補予定者6人(木津稔氏・田中敏雄氏・竹内照夫氏・藤崎ヨシヲ氏・目片信氏・八幡和郎氏)の市政に対する思いや人柄などを知ることが出来たのではないかと思います。運営にあたっては、公開討論会支援NGO団体リンカーン・フォーラムが教える運営マニュアルを参考にしました。

(2月例会)

2月例会では、委員会で大津市の現状と問題点を勉強・検証し、その中からいくつかをピックアップしてパワーポイントを用いプレゼンテーションしました。学んでいただいた内容は、大津市の現状や大津市が抱える問題の一部ですが、メンバーが市政に対し、よりいっそう認識と関心を深めていただいたと思います。

(9月例会)

9月例会では、大津少年センターの所長の安藤洋先生に「まちづくりはひとづくり」をテーマに大津市の教育の現状や問題点、特にこれからのまちを担う青少年達の現状を説明していただき、これからの社団法人大津青年会議所の「地域づくり」の参考になったと思います。

(行政・各種団体との関わりを検証)

社団法人大津青年会議所から、行政や各種団体に出向されている方々にアンケート調査をしました。調査の中には開催回数やその出向が必要か不必要かを尋ね、次年度以降の出向に対する参考資料を作成しました。

【4】その他(【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項)

- ・ 大津市長選挙では、目片信氏が28,766票で大津市長に選ばれました。投票率は前回よりも1.04%下回り過去ワースト3位になりました。

- ・ ヨシ刈りには、他の団体からうどんやおにぎり等の無料配布されており社団法人大津青年会議所からも何か出すことが出来ればと思いました。
- ・ 出向台帳を作成し、次年度以降はしっかりと管理していただけたらと思います。

【5】室長のコメント（室の基本方針との関連において）

政策委員会においての、市長選挙の公開討論会事業は地域が求めている事業として、街の新しい誕生に大きく関わる事ができました。

又、行政・各種団体との関わりを検証することで、社団法人大津青年会議所がこれからの行政・各種団体と関わり、どのように地域と関わっていくかの展望を示せたと思います。

事業報告書

情報活用室
室長 饗場貴子
情報委員会
委員長 八木健次

2004年度情報委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 4月例会を担当する。
ホームページ「青の輝き」による情報の共有を通じた大津JC全体の活性化の推進への一助となる事を目的とした、各委員会のホームページ作りを開催しました。
- 2) ハンドブックの作成・発行。
- 3) ホームページの運営・適宜更新。
- 4) 「青の輝き」の事業。
2003年度の創立50周年を迎えるにあたり、「プラスアルファのまちづくり」構想を提唱するとともに50周年記念事業として上演された、ミュージカル「青の輝き」のビデオを市内29箇所にある「児童クラブ」に、(社)大津青年会議所の紹介パンフレットを同封し配布しました。
- 5) 「あゆみ」の編集・発行。
- 6) 大津JCの活動を記録。
- 7) 褒賞申請。
- 8) サマーコンファレンスの担当窓口。
- 9) 日韓交流事業に協力。
- 10) 8月全体事業に参加。
- 11) 会員の拡大に協力。

【2】全体的報告

基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。

情報委員会では、様々な情報を収集、精査、検証を行う。その上で、地域や様々な団体に対しては、相互関係を大切にされた情報の受発信を行う。

地域や様々な団体に対して情報の受発信は行えなかった。

メンバーに対しては、市民や各種団体から求められる活動や存在意義を伝えます。

市民や各種団体から求められる活動や存在意義を伝えられなかった

また、事業を遂行する為にメンバー間で情報を共有し、趣旨を明確にすることで、事業に参加する意義を伝え、一人でも多くのメンバーに参加して頂けるよう活動致します。その具体的な方法としては、インターネットを中心とした活動を行います。

これに関しては、インターネットだけではなく、実際に会って交流した上での心を大切に活動ができました。

【3】個別的報告 { 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 }

4月例会を担当する。

ホームページ「青の輝き」による情報の共有を通じた大津JC全体の活性化の推進への一助となる事を目的とした、各委員会のホームページ作りを開催しました。その結果、メンバーに自分の所属する各委員会のページを通して、このホームページ「青の輝き」に愛着を持って頂く事ができ、より多くの方にアクセスして頂く事ができました。

そして、今後の情報委員会が行う、ホームページによる情報の共有を通じた大津JC全体の活性化の推進への一助となりました。

「青の輝き」の事業を行う。

2003年度の創立50周年を迎えるにあたり、「プラスアルファのまちづくり」構想を提唱するとともに50周年記念事業として上演された、ミュージカル「青の輝き」のビデオを市内29箇所にある「児童クラブ」に、(社)大津青年会議所の紹介パンフレットを同封し配布しました。

そのことで、「児童クラブ」に配布したことによって、今後永きに渡り、多くの子ども達に見て頂くことができ、大津青年会議所の名前や、考え方、活動を伝える事ができます。配布の際にも、大津青年会議所の活動を伝えることができました。わざわざ、配布に歩いたことで、児童クラブの先生方々からも、子ども達に夢のある暖かい想いを頂いたと、お礼を述べてくださいました。

ホームページの運営・適宜更新を行う。

2004年度のオリジナルのホームページ作りは、委員会のホームページを作り、全体の巻き込みをかけた。が、情報の即時性に欠けてしまった。継続的に全体を巻き込めなかった。

又、褒賞申請では、JCI - 世界会議・JCI - ASPACエリアB会議・全国会員大会・滋賀ブロック会員大会と、申請し、大津青年会議所の名前を残す褒賞として、成果を上げました。

【4】その他(【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項)情報の発信においての即時性に心がける。

ホームページを充実する事で、LOMの活性化に繋がる

【5】室長のコメント(室の基本方針との関連において)

途中、委員長交代がありながらも、八木委員長におかれましては一年間委員会をま

とめあげていただきました。しかし、情報の上での、地域と社団法人大津青年会議所の大きな掛け橋という点では、掛け橋になるべく情報の発信ができなかった事が反省点です。

事業報告書

拡大研修特別委員会
委員長 宇田 毅

2004 年度拡大研修特別委員会につき、下記の通り事業報告します。

【1】事業項目

- 1) 10月例会を担当。
- 2) 新入会員の拡大。
- 3) 新入会員獲得のための説明会。
- 4) 拡大パンフレットを作成。
- 5) 日韓交流事業。
- 6) メンバーの資質向上研修。
- 7) 予定者セミナー。
- 8) びわこを美しくする運動実践本部に協力。
- 9) 8月全体事業に参画。

その他

- ・研修基本計画事業
- ・姉妹JCプロジェクトチーム設置
- ・第3回日韓フットサルフェスティバル

【2】全体的報告

基本方針に対し、どこまで達成できたか、
またどの部分で達成し得なかったのかを書いて下さい。

会員拡大が切に望まれている昨今、大胆な発想の転換と新たな動きを起こしていく必要があり、拡大パンフレットの作成を行い、今までアプローチしていなかった企業様への入会アプローチをさせて頂きました。結果的には入会者は無かったのですが、各企業がJC運動に対しての理解をして頂けたことは得とすべき事でありました。対外的にJCの運動を見て頂く視点として、素晴らしい事業と素晴らしい個人の両方が無いことには対外的には成功しません。研修の様々なプログラムを通して個人としての成長を促すべく事業を進めさせて頂きました。過去例のない6回の継続した研修事業をさせて頂きました。平均出席者数は19.5人とLOMの2割程度のメンバーしか受講して頂けませんでした。参加頂いたメンバーはセミナーの趣旨通り今後自己確立しリーダーシップを発揮して頂けるものと思っております。

姉妹JCについては、プロジェクト方式で進めさせて頂きましたが、メンバー皆が出向者であり委員会開催をしても数人程度しか出席が無く主体性を持たなくてはいけない事業をプロジェクトで進める難しさを経験しました。しかし、事業としては訪韓、訪日とも素晴らしい事業を実施することが出来、フットサルもレベルの高い大会が実施できました。

新入会員においては8名の入会にとどまりましたが、素晴らしいメンバーが入会頂き、特に10月例会においては自分達で企画を進めていくなど、成長した姿が頼もしく見えます。

した。

【3】個別的報告 { 事業計画における事業について、
その成果と反省点、その理由等を書いて下さい。 }

拡大パンフレット作成

オンデマンドのA4サイズ8ページのカラーパンフレットを作成しました。

JCとは、過去の歴史、今年の事業など多方面に渡る内容を凝縮し、わかりやすい資料を作成しました。

研修基本計画事業

6回にも渡る長期的戦略的な研修事業でした。LOM内外を問わず沢山のメンバーにご参加頂きました。会場の手配などに色々と苦労しましたが、毎回素晴らしいコーチにお越し頂き、研修事業でも全国で有名になるほどの事業となりました。

姉妹JCプロジェクトチーム設置

出向メンバーの構成で行いましたが、毎年韓国に行っていたり、個人的な繋がりのあるメンバーが多く、事業当日においては様々な協力をして頂きましたが、事前の準備などには関わりを持って頂けるメンバーが少数でした。

4月訪韓事業

本年度は毎年の表敬事業に非武装地帯の見学を入れこみ、歴史と事実が物語る本当の国境を実体験して頂きました。

7月訪日事業 第3回日韓フットサルフェスティバル

訪日とフットサル大会をミックスさせ、メンバーとしては互いのスポーツ交流を通して親睦をはかることが出来ました。また、韓国側からのフットサル参加者の引率、旅行代金の一部負担をして頂き、互いに創り上げた事業として成功を収めました。

予定者セミナー

予定者セミナーとは、という議論からJCの本質についてのセミナー体験学習を行うことによる組織の学習をして頂きました。若いメンバーから色々な意見を頂戴し盛況に終了することが出来ました。

10月例会

今年度新入会員によるロールプレイングからセミナーを進めさせて頂き、外部から見たJCと内部に入っのJCについて説明頂きました。その後JC運動の広がりなどを講演した後グループに分かれてJC運動の今後について討議頂きました。

【4】その他（【2】【3】の関連で次年度への申し送り事項やその他の申し送り事項）

拡大のパンフレットについては、拡大がLOMの全体事業であることを全メンバーに徹底させる意味合いでも作成することは非常に有意義である。

研修事業はメンバーが成長する上で非常に有効な手段であり、ほとんどが体験学習であることから、色々なプログラムを実施する方がよい。

姉妹JC事業については毎年の積み重ねから何が出来るのかを十分に議論して結果を相手側に伝え大津JCが主体的に事業を進めていくことが必要である。韓国側からのアクションを期待しても思ったように進まないのので、大津JC主導でやるべきである。

